

令和2年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	実務経験のある 教員による授業 科目	基礎・専門 別	単位数	選択・必修 別	開講年次・ 時期
52441	幼児と言葉 Infant and Language	児玉珠美		専門	1	必修	1年前期

**科目の概要**

人間にとっての言葉の意義や機能を理解し、乳幼児期における言葉の発達過程や、乳幼児が経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育てるための保育活動内容や支援方法を学ぶ。また、園生活における言葉をめぐる問題についても事例を通して考察し、対応方法を学ぶ。さらに、言葉の発達を促していくための児童文化財についての基礎的な知識を習得する。

学修内容	到達目標
①乳幼児の言葉の発達の過程についての理論を学び理解する。 ②乳幼児への言葉の語りかけ方について学び理解する。 ③乳幼児が言葉に興味関心を持ち、想像する楽しさを味わえるような児童文化財の基本的な知識を学び理解する。	①乳幼児の言葉の発達の過程についての理論を概説できるようになる。 ②乳幼児への言葉の語りかけ方について理解できるようになる。 ③乳幼児が言葉に興味関心を持ち、想像する楽しさを味わえるような児童文化財の基本的な知識について理解し、概説できるようになる。

**学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素**

**学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

前に踏み出す力	主体性	自分自身の言語活動をみつめなおし、保育者として子どもたちのモデルとなるような言葉を日常的に使う努力をすることができる。
	働きかけ力	
	実行力	課題に対し積極的な自主学修をし、できる限りの努力をもって完成させることができる。
考え抜く力	課題発見力	乳幼児に対する保育者の理想的な言葉かけを実践できるようになるために、何をしていくべきか、常に省察し、課題を見出していく姿勢を持つことができる。
	計画力	
	創造力	乳幼児が楽しめる言葉を使った遊び等を考案していくことができる。
チームで働く力	発信力	授業中に他者が理解しやすいように、自分の意見を整理しながら述べるることができる。
	傾聴力	授業中は他者の発言に集中し、自分と異なる意見を尊重することができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。
	ストレスコントロール力	

**テキスト及び参考文献**

マザリーズの理論と実践 内山伊知郎監修 児玉珠美 上野萌子編著 北大路書房 ・教員作成プリント  
参考文献：「保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領・幼稚園教育要領」 「事例で学ぶ保育内容 言葉」無藤隆監修 高濱裕子編 萌文書林  
「ことばの表現力を育む児童文化」 川勝泰介他編著 萌文書林

**他科目との関連、資格との関連**

他科目との関連：言語表現・乳児保育・児童文化  
資格との関連：幼稚園教諭二種免許、保育士

学修上の助言	受講生とのルール
<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの言葉に対する感覚を豊かにするよう、日常的に実践するよう心がけること。</li> <li>言葉を育てる多くの児童文化財に積極的に触れるよう努力すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>私語や勝手な言動をする学生は、授業を受ける権利はないとする。</li> <li>筆記試験・提出物・授業態度等によって評価する。</li> </ul>

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
学修成果	学期末試験 筆記(レポート含む)・実技・口述試験	60	①	✓	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児の言葉の発達の過程を理解し、説明することができる。</li> <li>乳幼児への言葉の語りかけ方であるマザリーズの効果について理解し、説明することができる。</li> <li>絵本や物語等、乳幼児が言葉に興味関心を持ち、想像する楽しさを味わう児童文化財の基本的な知識について説明することができる。</li> </ul>
			②	✓	
			③	✓	
			④		
			⑤		
	小テスト		①		
			②		
			③		
			④		
			⑤		
	レポート	20	①	✓	授業の振り返りを行い、学修内容をまとめ、レポートとして作成することができる。
			②	✓	
			③		
			④		
			⑤		
平常評価 成果発表(プレゼンテーション・作品制作等)	10	①		言葉の発達を促す児童文財や遊びについて学ぶ。グループごとに、遊びや児童文化について調べ、発表することができる。	
		②			
		③	✓		
		④			
		⑤			
学修行動	社会人基礎力(学修態度)	10	①		主体性) 自分自身の言語活動をみつめなおし、保育者として子どもたちのモデルとなるような言葉を日常的に使う努力をすることができる。 (実行力) 課題に対し積極的な自主学修をし、できる限りの努力をもって完成させることができる。 (課題発見力) 乳幼児に対する保育者の理想的な言葉かけを実践できるようになるために何をしていくべきか、常に省察し、課題を見出していく姿勢を持つことができる。 (創造力) 乳幼児が楽しめる言葉を使った遊び等を考案していくことができる。 (発信力・傾聴力) 授業中に他者が理解しやすいように、自分の意見を整理しながら述べることができ、他者の発言に集中し、自分と異なる意見を尊重することができる。 (規律性) 遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。
			②		
			③		
			④		
			⑤		
総合評価 割合		100			

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
レベルS(秀)は、学修内容のすべてにおいて十分な理解と主体的に課題を発見と解決に取り組む姿勢がみられ、筆記試験、レポート、社会人基礎力の総合評価において、非常に優れた評価を得ることを基準とする。 A(優)は、学修内容のすべてにおいて十分な理解ができており、筆記試験、レポート、社会人基礎力の総合評価が優れた評価であることが基準となる。	レベルB(良)は、学修内容が理解できており、筆記試験、レポート、社会人基礎力の総合評価が、基本的な修得以上、到達レベルA(優)までの評価が基準となる。 レベルC(可)は、学修内容が概ね理解できており、筆記試験、レポート、社会人基礎力の総合評価が基本的に習得できているという評価であることが基準となる。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1週 /	リエンテーションを行う。保育の基本と領域「言葉」のねらいと内容について学ぶ。5領域について学び、領域言葉と他領域との関連性について理解する。人間にとっての言葉の意義と機能について学ぶ。	講義	授業の目的・目標・評価方法について理解できる。5領域とは何かを理解し、言葉の他領域との関連について考えることができる。	(予習) 授業シラバスを事前に読み、疑問点及び質問事項を考えておく。 (復習) 授業の目的・目標・評価方法について確認しておく。	180	傾聴力 主体性 規律性
2週 /	人間の言葉の獲得へ道筋や発声の仕組みについて学ぶ。	質疑応答による前回授業内容のフィードバック 講義 グループ討議	人間にとっての言葉の意義や機能について理解し、概ね説明することができる。発声の仕組みについて理解できる。	(予習) 人間にとっての言葉の意義について、ノートにまとめる。 (復習) 人間にとっての言葉の意義や機能について、ノート内容を見直し、確認する。	180	傾聴力 主体性 規律性
3週 /	言葉の発達(新生児の発声機能やコミュニケーションの理解)について学ぶ。	質疑応答による前回授業内容のフィードバック 講義 グループ討議	新生児の発声の機能について知る。言葉以前のコミュニケーションの重要性について理解し、説明することができる。	(予習) テキストp14～24を読んで疑問点をまとめておく。 (復習) テキストp14～24を読みなおし、学修内容を振り返り、理解できていない点を確認する。	180	傾聴力 主体性
4週 /	言葉の発達(新生児の言葉獲得に向けての発声)について学ぶ。	質疑応答による前回授業内容のフィードバック 講義 グループ討議	生理的な発声から、クーイング、喃語までの発声の段階について理解し、概説することができる。	(予習) テキストp24～27を読み、疑問点をまとめておく。 (復習) テキストp24～27とノート内容を読み、理解できていない点を確認する。	180	傾聴力 規律性
5週 /	言葉の発達(0歳児の言葉獲得に向けての発声)について学ぶ。	質疑応答による前回授業内容のフィードバック 講義 グループ討議	0歳児の身体、認知、及び心理発達段階と言葉の発達段階との関連性について理解する	(予習) ノート内容を見直し、理解ができていない点を確認する。 (復習) 授業ノート内容を読み直し、重要点をまとめる。	180	傾聴力 規律性
6週 /	言葉の発達(1～2歳児の言葉の獲得に向けての発声段階)について学ぶ。	質疑応答による前回授業内容のフィードバック 講義 グループ討議	1～2歳児の身体、認知、及び心理発達段階と言葉の発達段階との関連性について理解する。ジャーゴンから単語の発音までの過程を理解し、概説することができる。	(予習) 1～2歳児の言葉について知っていることをまとめる。 (復習) ノート内容を見直し、理解ができていない点を確認する。	180	主体性 傾聴力 規律性
7週 /	0～2歳児への保育者の言かけについて学ぶ。マザリーズの効果について理解する。	質疑応答による前回授業内容のフィードバック 講義 グループ討議	0歳から2歳までの乳幼児への語りか方としてマザリーズの必要性和効果について理解し、説明することができる。	(復習) テキストP28～42を再読し、0歳から2歳までの乳幼児への語りか方としてマザリーズの必要性和効果について理解し、説明することができる。	180	主体性 傾聴力 規律性
8週 /	言葉の発達(3～4歳児の発語の理解と保育者の関わり・環境)について、園生活における事例を通して学ぶ。	演習 グループ討議 発表	事例を理解し、保育者として客観的かつ子どもの気持ちに寄り添った視点で問題解決をする方法を説明することができる。	(予習) 事前に配布されたプリントの事例を読み、子どもの気持ちや対応方法を自分なりに考え、記入する。	180	実行力 発信力

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9週 /	言葉の発達(5～6歳児の発達の理解と保育者の関わり・環境)について、園生活における事例を通して学ぶ。	演習 グループ討議 発表 全体討議による フィードバック	事例を通して、5～6歳の集団活動を通じた言葉の発達や言葉の等について、保育者としての対応方法を身に付けることができる。	(予習) 事前配布プリントの事例について、保育者としての対応方法を自分なりに考え記入する。	180	実行力 発信力
10週 /	園生活における言葉の問題と保育者の対応方法について、事例を通して学ぶ。	演習 グループ討議 発表 全体討議による フィードバック	園生活における子どもの仲間同士の言葉のトラブル等について、保育者としての対応を考え、自分なりの解決方法を見出すことができる。	(予習) 事前配布プリントの事例について、保育者としての対応方法を自分なりに考え記入する。 (復習) グループ討議内容をプリントにまとめる。	180	実行力 発信力
11週 /	言葉と脳についてのDVDを通して、言葉とは何かについて科学的に理解する。	DVD視聴 演習	脳と言葉の関連性について理解することができる。	(予習) 言葉と脳の関係について、知っていることをまとめておく。 (復習) DVDの感想レポートを完成させる。	180	傾聴力 課題発見力
12週 /	言葉の発達を促す児童文化財や遊びについて学ぶ。グループごとに、遊びや児童文化について調べる。	演習 グループワーク	協働意識を持って、グループ討議や調査活動ができる。他者の意見を謙虚に受け止め、グループワークでの自己コントロール能力を持つことができる。	(予習) 対象クラスの月齢と、発達過程の特徴について、調べてまとめておく。(復習) 文献やウェブサイトを活用し、各自でさらに詳しく調べる。	180	主体性 発信力 創造性
13週 /	児童文化財や遊びについてのグループごとにプレゼンテーションする①。	演習 プレゼンテーション 全体討議による フィードバック	発表に際し、公平は役割分担になるよう、協働メンバーへの配慮等ができる。他グループの発表に敬意を持って向き合うことができる。	(予習) 自分の役割を確認し、発表内容について練習しておく。 (復習) プレゼンテーションを振り返り、課題を明確にし、レポートを提出する。	180	主体性 発信力 創造性
14週 /	児童文化財や遊びについてのグループごとにプレゼンテーションする②。	演習 プレゼンテーション 全体討議による フィードバック	発表に際し、公平は役割分担になるよう、協働メンバーへの配慮等ができる。他グループの発表に敬意を持って向き合うことができる。	(予習) 自分の役割を確認し、発表内容について練習しておく。 (復習) プレゼンテーションを振り返り、課題を明確にし、レポートを提出する。	180	主体性 発信力 創造性
15週 /	授業の振り返りを通して、授業のまとめをする。今後の課題を明らかにする。	演習 全体討議による フィードバック	事前のレポート課題に対し、自分の力で努力できた。事前レポートをさらに深めることができる。授業内容を振り返り、今後の課題を見出すことができる。	(予習) 授業ノートやプリント等に目を通して、学びが不十分なところを確認しておく。 (復習) 授業内容全体を振り返り、学修不十分な点を確認し、テキストやノートを再読する。	180	課題発見力

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力